

地域の皆さまと病院をつなぐ

ごろまるだより

総合犬山中央病院広報誌 GOROMARU dayori

Vol. 135
2025 spring

ごろまる医療のチカラ

より快適な療養環境と職場環境を目指して取り組む、
さまざまな“KAIZEN”（改善）活動

院長 齊藤 雅也

- ・当院ではレスパイト入院を受け入れています
- ・健康管理センター（西館5階）は様々な健康診断をおこなっています
- ・マイナンバーカード保険証利用のご案内

Photo：総合犬山中央病院 ICLS講習会 2025.2.15



新たな仲間を迎え、未来へ踏み出す—2025年度入職式を開催

院内行事



2025年4月1日(火)、総合犬山中央病院にて2025年度の入職式が行われました。今年度は医師や看護師をはじめとする34名(非常勤職員を除く)の新入職員を迎え、病院全体が新たな活気に包まれました。

式典では、理事長が「地域医療を支える一員として使命感を持ち、患者さんに寄り添った医療を提供してほしい」と力強い激励の言葉を贈りました。また、院長や事務局長からも病院の理念や新入職員への期待が語られ、各部署の紹介が行われる中で、新入職員たちは自らの役割を理解する機会を得ました。

緊張感の中にも希望を秘めた新入職員たちの姿が印象的だったこの日。新たな仲間とともに、総合犬山中央病院は地域医療のさらなる発展に向けて歩みを進めてまいります。

愛知県宅地建物取引業協会 北尾張支部様より 「車椅子を寄贈していただきました」

地域関連

愛知県宅地建物取引業協会北尾張支部様から、当院に車椅子5台を寄贈していただきました。2025年2月4日(火)に行われた贈呈式では、北尾張支部長の斉木良二様より目録が竹腰篤理事長へ手渡されました。このたびのご厚意に心より感謝申し上げます。いただいた車椅子は、患者さまの院内での移動などに活用させていただいております。



【協賛企業様(順不同)】 株式会社住まいる大輝様 株式会社丸協 小牧支店様
齊木商事株式会社様 株式会社伸建ホーム様 T・U不動産株式会社様
株式会社カトル様 桑原木材株式会社様

「転倒予防し健康寿命を延ばそう」

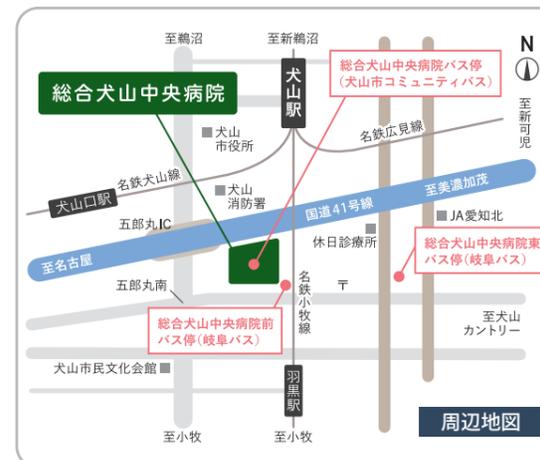
出前講座

講師：吉村 勇希(理学療法士) 主催：犬山市老人クラブ 城東地区連合会様



総合犬山中央病院では、当院スタッフが講師として近隣のイベントに伺いする「出前講座」を行っております。

2025年3月18日(火)、城東地区連合会 様主催にて、当院の理学療法士・吉村勇希が「転倒予防し健康寿命を延ばそう」をテーマに講演を行いました。転倒と健康の関係性や転倒と生活環境についてなどを理学療法士の視点からお話しし、転倒予防の筋力トレーニングをレクチャーしました。



社会医療法人 志聖会
総合犬山中央病院

〒484-8511
愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚6
TEL.0568-62-8111 (代)
HP <https://www.inuyamachuohospital.or.jp/>



外来受付時間 8:00~11:00
休診日：日曜・祝日
救急は24時間365日受け付けています。

面会時間
月曜~金曜 15:00~20:00
土曜・日曜・祝日 13:00~20:00

総合犬山中央病院
理念 地域の人々が安心して暮らせる
心の支えとなる病院を目指します。

総合犬山中央病院 @inuyamachuohospital
総合犬山中央病院チャンネル @inuyamachuohospital-pr

社会医療法人 志聖会
総合犬山中央病院

院長
齊藤 雅也

より快適な療養環境と職場環境を 目指して取り組む さまざまな“KAIZEN”(改善)活動



総合犬山中央病院は、2024年に公益財団法人日本医療機能評価機構が定める「機能種別版評価項目一般病院2」「機能種別版評価項目リハビリテーション病院」の認定を受けました。また、よりよい病院にしていくために、「改善活動」にも取り組んでいます。今回は齊藤雅也院長に、さまざまな“KAIZEN”(改善)について伺いました。

職員一人ひとりの意識が
変わった「病院機能評価」

―病院機能評価の認定について
お聞かせください

齊藤 今回、当院の「医療の質の担保」を目的に病院機能評価を受審し、認定をいただきました。チェック項目は88項目ありますので、医師、看護師はもちろん、事務系職員や検査技師、放射線技師などすべての職員で力を合わせて取り組みました。部門ごとに検討会や勉強会を行い、1年半かけてさまざまな改善を行ってきました。第三者の評価を受けるという非常にインパクトのある機会だったと感じますし、職員一人ひとりの意識が変わって心を一つにして取り組めたのではないかと思います。

―具体的な取り組み内容について教えてください

齊藤 主に取り組んだのは、院内の整理整頓と書類の整理・運用です。書類関係では、検査や輸血、手術を



勤務していた病院で改善活動としてTQM(Total Quality Management

Ⅱ総合的品質管理)を行っていました。一般的には製造業などで取り組まれることの多い活動なのですが、病院版として取り入れていました。その経験を活かしてまず取り組みだのは、先ほどお話ししたプロセスフローチャートを書いてみる機会をつくるということです。書いてみることで、医療の工程がかなり複雑だということがわかりますし、不要な業務も見えてきます。2019年にプロセスフローチャートを書く



「病院機能評価」の認定は、当院が提供する医療の質や安全性、組織運営の透明性において高い基準を満たしていることを外部機関に認めていただいた証です。

する際の同意書やマニュアルの内容を見直したり、運用方法を検討したりしました。書類はいつでも誰でも見ることのできる状態であることが重要です。紙で保管すると、保管場所を知っている人とそうでない人がいたり、取り出すのが困難だったりして使われなくなりがちです。この機会にPC上のわかりやすい場所へ保管するように変更しました。ITを活用しながら効率化していくというのが一つのポイントだと思います。治療や検査のスケジュールをまとめた診療計画表「クリニカルパス」はより質の高い医療を患者さんに提供することが目的なのですが、受審前までの運

用率は10%台でした。どうしても忙しいときには口頭説明になりがちだったのです。今回、このクリニカルパスの適切な運用に取り組み、今では運用率が50%まで上がりました。患者さんへの説明・同意が大切だと職員みんなが理解することにより、運用を推進できたのだと思います。

病院機能評価をきっかけに
効率化と標準化を進める
ことができた

―病院機能評価への取り組みを経て得たものは？

齊藤 1年半の取り組みの中でできたことは、効率化と標準化です。特に、この疾患の人にはこんな流れで対応するという「プロセスフローチャート」を整理し運用するようになりしました。これまでは執刀医によって手術の準備や流れが異なるということがあり、そこに余分なエネルギーを使っていました。そこでチャートを活用することにより、ど

の執刀医の場合でも同じ対応ができるようにしたのです。これが標準化であり、効率化にもつながっています。医師の頭の中にあるものを見える化してみんなで共有することで、職員も働きやすくなりますし、患者さんもより安心できますよね。取り組んでいくうちにその効果や意義をみんなが実感するようになります。「これは大事なことなのだ」と納得しながら行うことができたのではないかと思います。5年後に更新がありますので、また認定を受けられるように頑張っていきたいです。

現場の声をもとに進めた
「KAIZEN活動」

―病院機能評価の取り組みの中でもさまざまな「改善」があったと思います。改善活動が活発になったきっかけをお聞かせください

齊藤 現場での困りごとやおかしさと思うことがあったら直せるかどうか検討して、変えていきましょうというのが「改善」です。私は以前

病院機能評価とは

病院機能評価とは、病院で提供されている診療やケアについて、日本医療機能評価機構が行う中立的、科学的、専門的な見地から審査する第三者評価です。第三者の立場から評価することで、病院の質を向上させ、国民が安全・安心な医療を受けられる環境を整備することを目的としています。病院全体の運営・管理がされているか、適切な医療が提供されているかを判断します。

総合犬山中央病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構が定める「機能種別版評価項目 一般病院 2」「機能種別版評価項目 リハビリテーション病院」の認定を受けました。

総合犬山中央病院のKAIZEN活動

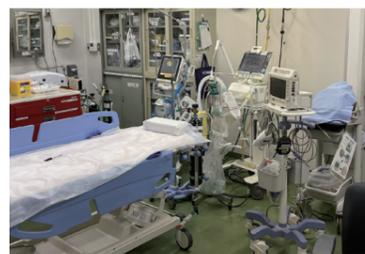
これまでの経過

2019年より改善活動をスタートし、最初はフローチャート作成についての研修を実施。2021年より業務改善発表会を行っています。

2019年～	【改善活動】開始 改善活動を進め方、フローチャート作成について研修	
2021年4月	第1回院内業務改善発表会	発表数 11
2022年6月	第2回院内業務改善発表会	発表数 16
2023年5月	第3回院内改善発表会	発表数 16
2024年7月	第4回院内改善発表会	発表数 7

改善事例【救急室の環境整備】

物品が多く雑多な印象だった救急室において、総数1,696個、336種類設置された物品を**689個、292種類**に減らした過程を紹介します。



before



after

取り組みの流れ

改善テーマの決定

物品のチェックを行い、減らせるものがあるか検討して、改善テーマを決定しました。

目標設定

「物品を減らす」「環境を整える」「救急チェック時間を短縮する」「動線を良くする」を目標に設定しました。

要因と対策を考える

要因は「物品が多く、重複して配置されていること」、対策は「使用頻度と使用場所の関連性を考えた数と配置に変更」としました。

取り組みの効果

効果1 物品の減少

必要物品を必要な場所に設置後、総数の**59%**を削減できました。

効果2 救急チェック時間の短縮

かかる人員は平均2名、かかる時間は**平均40分**となり、改善前より**35.6分短縮**されました。

大会を始め、翌年からは改善大会をスタートしました。現場でおかしいなと思っても決まりごとだから声が出せないという人も少なからずいますので、そんな人が提案をしやすくなるきっかけにもなったと思います。

これまで具体的にに行ったのは、救急室の環境整備や病院内の案内サインの改善などです。こういった目に見えるものは改善に取り組みやすいのですが、先ほど挙げたプロセスフローチャートを書くことによって初めて気づく「無駄」「無理」もありますし、現場の人にとって「日常」「当たり前」になっていて気づかないということもあります。改善には多くの人が参加し、いろんな角度から見ていくことが大切です。そういった見えにくいものを見える化して改善していくことが今後の大きな課題になるのではないかと考えています。

「改善の一環である『5S活動』についてお聞かせください」

齊藤 病院機能評価の審査に向けて取り組む中で、視察に来られた第三者の方に雑然とした院内を指摘されたことがきっかけで始めたのが「5S（整理、整頓、清潔、清掃、習慣活動）」です。必要なものと不必要なものを分ける「整理」と、必要なものをすぐに使えるようにする「整頓」。整理整頓は病院機能評価の項目にも入っていますので、徹底することを心がけました。

具体的には、 unnecessary の定義を「1年以上使っていないもの」と定め、病棟にあったいろんなものを



5S活動の様子。これにより28トンもの不要物を処分することができた

処分することになりました。驚くべきことに、トータルで28トンもの不要物を処分したのです。年季の入った病棟ではあるのですが、ものが少なくなっただけで広々とした空間が生まれ、働く環境としてもよくなりましたし、患者さんからも「すっきりしたね」というお声をいただくことができました。5Sは習慣化するのが非常に難しいものだと感じていますので、定期的にチェックをしたり職員一人ひとりが意識したりして定着させていきたいです。

地域に必要とされる病院になるために

「今後の展望をお聞かせください」

齊藤 まずは、老朽化している病棟を新しくすることです。それに伴い、患者さんの満足度や職員の働きがいのある病院にしていきたいことを目標にしています。最近ではいろんなスキルを持った医師が入職してくれていますので、そういったところを病院の強みにしていきたいと

profile

さいとう まさや

岐阜県岐阜市生まれ。1978年岐阜大学医学部卒業。同大学医学部付属病院第一内科に入局後、消化器内科を専門に研鑽を積む。その後国立療養所岐阜病院（現・国立長良医療センター）赴任に際し、呼吸器内科に転向。日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医。関中央病院（旧西尾病院）の院長を25年間務め、2018年3月より現職。



思っています。また、ここまでお話ししてきた改善活動などを通して、患者さんに寄り添う気持ちをもって医療を提供していきたいです。

当院は、コロナ禍には重点医療機関の指定を受けてコロナ患者さんの診療に取り組みました。さまざまな職員が協力してくれたおかげで地域医療に貢献できたのではないかと思います。これからも世の中の流れや社会の変化などに合わせてどんな医療を提供できるのかを考え続け、地域の皆様に必要とされる病院にしていきたいと思っています。



健康管理センターからのお知らせ

健康管理センター(西館5階)は様々な健康診断をおこなっています

- ☑ 人間ドック(半日コース)
- ☑ 生活習慣病予防健診(協会けんぽ)
- ☑ 企業健診(法定健診)
- ☑ 入職時(雇用時)健診
- ☑ 特定健診
- ☑ 住民健診(犬山市、大口町、扶桑町)
- ☑ ガンスクリーニング検査
 - ・AICS・マイクロアレイ・マイシグナルなど
- ☑ 特殊健康診断
 - ・有機溶剤・特定化学物質・じん肺健診
 - ・紫外線・赤外線健診など

総合病院を活かした各分野専門医によるダブルチェック体制



万が一の場合でもスピーディーで万全なバックアップ対応



★女性の方へ…婦人科検診(乳がん、子宮頸がん)、骨密度、リウマチ検査、甲状腺検査等同日で受けていただくことができます。曜日によって女性医師が担当します。更年期が気になる方には各種検査コースもご案内できます。ぜひお気軽にご相談ください。



ホームページにも詳細が記載されています。お問い合わせをお待ちしております。

【お問い合わせ】総合犬山中央病院 健康管理センター
直通(0568)-62-8246 代表(0568)-62-8111

詳しくはこちら



マイナンバーカード保険証利用のご案内

患者の皆さま、
マイナンバーカードで
受付してください

今回お持ちでない方は、次回からご持参ください

一人ひとりの過去の薬剤・診療情報などに基づいたより良い医療が受けられます



2024年12月2日から
現行の健康保険証の新規発行は終了します

1. 12月2日時点で有効な健康保険証は最長1年まで有効です。
2. 12月2日以後、健康保険証として有効なマイナンバーカードが手元にない方には、現行の健康保険証が受け取れません。
3. マイナンバーカードが手元にない方には、「健康保険証」を再発行いたします。
4. マイナンバーカードが手元にない方には、マイナンバーカードでもご利用いただけます。但し、マイナンバーカードが手元にない場合はマイナンバーカードで再発行してください。
5. 健康保険証とマイナンバーカードが手元にない場合は、適切な後援機関(自治体)の窓口、健康保険センターなどで、再発行を受けてください。

厚生労働省

出典:厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001301997.pdf

総合犬山中央病院では、マイナンバーカードを健康保険証としてご利用いただけます。

マイナンバーカードを保険証としてご登録いただくことで、他の医療機関での受診歴や処方された薬の情報、特定健診のデータを共有できる仕組みを整えています。

これにより、患者さんの医療情報を正確に把握し、診療の質向上に努めることが可能となります。また、保険証を持ち歩く必要がなくなり、受付手続きも簡略化。医療の質向上だけでなく、患者さんにとっても便利な仕組みとなっています。

皆さまの健康をより良い形でサポートするために、ぜひマイナンバーカードの保険証利用をご活用ください。

※マイナンバーカードを保険証として利用するには、事前に登録手続きが必要です。登録方法については、受付窓口にお問い合わせください。



地域連携支援センターからのお知らせ

総合犬山中央病院ではレスパイト入院を受け入れています。

レスパイト(respite)とは「休息」「息抜き」という意味です。

自宅療養中の患者さんに一時的に入院していただくことで、ご家族の方を支援する仕組みです。

介護保険によるショートステイの利用が難しい患者さんを、医療保険で受け入れています。

01 こんな時、ご相談ください

介護疲れのため
休息をとりたい

冠婚葬祭で
家を空ける

ご家族自身の
急な病気や怪我で
介護が難しい

出張や旅行の
予定がある。



■レスパイト入院のメリット

介護者がホッと一息つくことで心も体もリフレッシュし、介護疲れや日々のストレスが軽減する効果を期待できます。

02 ご利用できる患者さん

- 介護保険によるショートステイの利用が困難で、下記の医療的処置が必要な方。
- 体調が安定しており、退院時に自宅へお戻りいただける方。

下記の医療処置が必要な方の一時入院に対応しています。

- 点滴、胃ろう、経鼻での栄養が必要である。
- 夜間の吸引が必要である。
- 導尿が必要である。
- 気管切開をしている。
- 在宅酸素を行っている。
- 褥瘡処置を行っている。
- 膀胱留置カテーテルが入っている。
- ストーマがある。

03 注意事項

- 治療目的の入院ではありませんので、入院中に治療や検査は行いません。
- ご希望によりリハビリも行えます。詳細はお問い合わせください。



05 入院期間

- 1泊2日からのご利用となります。
- 他機関へのレスパイト入院も含め、通算利用日数が60日を超える場合は、3ヶ月の期間を空けていただきます。



04 入院費用

- 医療保険での対応になります。
- 食事代は自己負担となります。



06 入院時の持ち物

- 内服薬・点眼薬・インスリン・軟膏・栄養(胃ろう)など、日々使っているお薬。
- オムツ・パジャマなどの身の回り品。

※オムツ・パジャマは借りていただくこともできます。なお、当院と契約している業者からの貸与となり、本人(ご家族)と業者との契約になります。入院時に説明させていただきます。

かかりつけ医療機関または担当のケアマネージャーさんを通してお問い合わせください。

【お問い合わせ】総合犬山中央病院 地域連携支援センター TEL. 0568-62-8200 (医療・福祉相談)